

**製品名: カスパーゼ 9 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07989**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	46kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CASP9
別名	CASP9; MCH6; Caspase-9; CASP-9; Apoptotic protease Mch-6; Apoptotic protease-activating factor 3; APAF-3; ICE-like apoptotic protease 6; ICE-LAP6
遺伝子 ID	842.0
SwissProt ID	P55211
免疫原	抗血清はヒトカスパーゼ 9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

**背景**

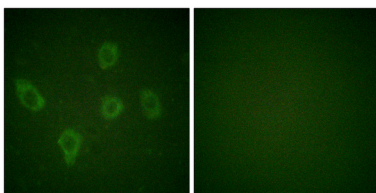
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。カスパーゼの連

続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解処理を受けて大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化して活性酵素を形成します。このタンパク質は、シトクロム c とアポトーシスペプチダーゼ活性化因子 1 からなるタンパク質複合体であるアポトーシスソームによって自己タンパク質分解処理および活性化を受ける可能性があり、この段階はカスパーゼ活性化カスケードにおける最も初期の段階の一つと考えられています。このタンパク質はアポトーシスにおいて中心的な役割を果たし、腫瘍抑制因子であると考えられています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013年5月],触媒活性: P1 位に Asp 残基が厳密に必要であり、P2 位には His が顕著に優先する。優先切断配列は Leu-Gly-His-Asp-|-Xaa である。機能: アポトーシス実行を担うカスパーゼの活性化カスケードに関与する。カスパーゼ 9 が Apaf-1 に結合するとプロテアーゼが活性化され、カスパーゼ 3 が切断・活性化される。ポリ(ADP-リボース)ポリメラーゼ(PARP)をタンパク質分解的に切断する。機能: アイソフォーム 2 は活性を欠き、カスパーゼ 9 の優性負性阻害剤である。オンライン情報: カスパーゼ 9 エントリ、PTM: グランザイム B による Asp-315 の切断とカスパーゼ 3 による Asp-330 の切断により、2 つの活性サブユニットが生成される。カスパーゼ 8 および 10 もこれらの処理過程に関与している可能性がある。類似性: ペプチダーゼ C14A ファミリーに属する。類似性: 1 つの CARD ドメインを含む。サブユニット: 35 kDa (p35) サブユニットと 10 kDa (p10) サブユニットからなる、2 つの逆平行に配置されたヘテロダイマーからなるヘテロテトラマー。カスパーゼ 9 と APAF1 は、シトクロム C と ATP の存在下で、それぞれの NH2 末端 CED-3 相同ドメインを介して相互に結合します。阻害因子 BIRC2、BIRC4、BIRC5、および BIRC7 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に存在し、心臓で最も高い発現を示し、肝臓、骨格筋、膵臓では中程度の発現を示す。その他の組織では低い発現を示す。、

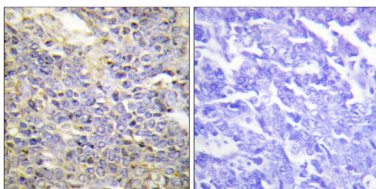
## 研究分野

p53、アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、VEGF、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、ハンチントン病、がんの経路、大腸がん、膵臓がん、子宮内膜がん、前立腺がん、小細胞肺がん、非小細胞肺がん、ウイルス性心筋炎、

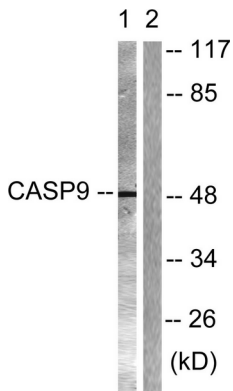
## 画像データ



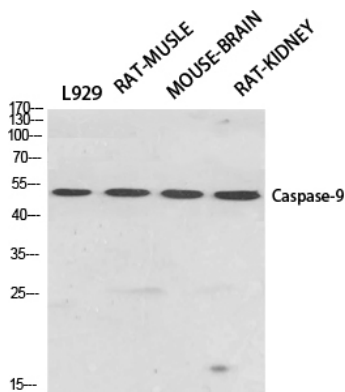
カスパーゼ 9 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



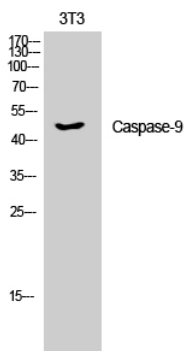
カスパーゼ 9 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



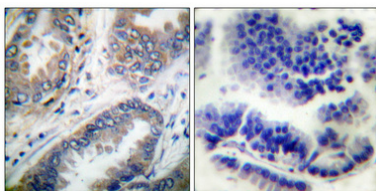
NIH/3T3 細胞ライセートを TNF- $\alpha$  20 ng/ml 30 $\mu$ l で処理し、カスパーゼ 9 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



1: 500 希釈のカスパーゼ 9 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



1: 500 希釈のカスパーゼ 9 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4 $^{\circ}$ C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。